

ニュージーランドの金利引き下げについて

2015年12月10日

12月10日(現地時間)、ニュージーランド準備銀行(中央銀行)は、政策金利を0.25%引き下げ2.50%にすることを決定しました。事前の市場予想でも利下げを見込む向きが多かったこと、ウィーラー中銀総裁が「今回の利下げによりインフレ目標に到達すると見込んでいる」と説明したこともあり、発表後、ニュージーランド・ドルは小幅上昇しております。

《金利引き下げ決定に至った経緯について》

追加利下げに至った背景としては、引き続き、低水準の物価とインフレ期待、大幅な貿易赤字に加え、夏場に回復していた乳製品価格が再度下落し交易条件が悪化していることに配慮したものと見られます。

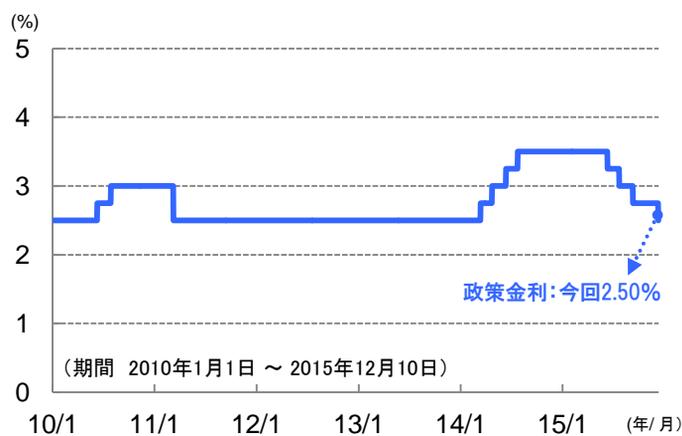
《今後の景気、為替レートについて》

ニュージーランドの景気は一部明るいものも散見されますが、総じてみればまだら模様と言えます。高水準の移民流入により住宅市場は堅調さを維持しており、消費者の信頼感も改善傾向にあるものの、雇用・所得環境は低調で、特に賃金の伸びが鈍化していることから、将来のインフレ期待も低下しております。また、主要輸出品価格が再度軟化しており、貿易赤字は高水準となっております。

中央銀行は、世界景気、特に中国の弱さや低水準のインフレ率を指摘し、ニュージーランド景気も交易条件の悪化により緩やかな回復になっていると説明しています。ただし、中期的には移民の流入増加が国内需要を押し上げるとしており、2016年の早い時期にインフレ率は中央銀行の目標の範囲(1~3%)に戻ってくると予測しています。一方で、状況次第では追加利下げの可能性も指摘し、また、為替レートについても更なる減価が適切と述べております。

以上、中央銀行は引き続きニュージーランド・ドルの通貨高に対しては警戒している上、追加の利下げ観測も残りそうです。また、米国金融政策の転換や世界景気の更なる悪化、金融市場の変動性が高まる局面でも下押し圧力がかかりやすいものと見られます。中期的には、世界景気や資源・エネルギー価格の底入れに加え、ニュージーランドの景気やインフレ率も回復することで追加利下げ観測も後退し、ニュージーランド・ドルも安定してくるものと見込んでおります。

《ニュージーランドの政策金利の推移》



出所：Bloombergデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

《ニュージーランド・ドルの対円推移》



出所：Bloombergデータをもとに明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。